

## 喜多村直寛『黄帝内経素問講義』における 押韻の指摘について

澤谷 直子

日本鍼灸研究会

江戸考証学の医経研究の特徴の一つに、押韻の指摘がある。医経における押韻の指摘については、清朝考証学の王念孫（1744～1832）の『素問合韻譜』や江有誥（1773～1852）の『先秦韻読』にその例があるが、医経の全篇に訓註注解を施すなかで多数の押韻の指摘を行ったのは、わが国の渋江抽斎（1805～1858）の『靈枢講義』や森枳園（1807～1885）の『素問攷注』そして喜多村直寛の『黄帝内経素問講義』などが最初である。本研究では『黄帝内経素問講義』の押韻指摘の具体的な在り方を解明する。底本には『東洋医学古典注釈選集』（オリエン特出版社、1987年）の第1冊～第4冊を使用した。なお『黄帝内経素問講義』は大部の書であり、厳密を期すためにも、今回の調査報告は第一巻から第三巻までに止めた。なお『先秦韻読』以外に、錢超塵著『内経語言研究』中編・音韻における指摘を参照した。

『黄帝内経素問講義』全12巻中、押韻指摘箇所は98箇所あり、そのうち第一巻から第三巻までには36箇所の指摘があった。『先秦韻読』と比較すると、上古天真論・四気調神大論・陰陽応象大論には共に押韻指摘があるが、『先秦韻読』の方がその数は多い。また生氣通天論は『先秦韻読』のみ、移精變氣論は『黄帝内経素問講義』のみに押韻指摘が見られた。その詳細は以下の通りである（例えば01-07b04とは巻一第七葉裏四行目を指す）。

- ① 01-07b04「真神二字、并押韻」は『先秦韻読』にも指摘があり、『内経語言研究』268頁には真（真韻）と神（真韻）押韻の指摘がある。
- ② 01-08b09「之時、押韻」は『先秦韻読』の指摘はない。
- ③ 01-32b10「按此一段隔句押韻」は、31a03～32b10の各行末「平、明、興、刑、平、清」の刑・平・清（耕韻）、明（陽韻）、興（蒸韻）を示すと思われる。耕韻、陽韻、蒸韻は押韻する。『先秦韻読』では、「平、明、寧、刑、平、清」の平・寧・刑・平・清（耕韻）、明（陽韻）の指摘があり、耕韻と陽韻は押韻する。『内経語言研究』280頁に「平、明、寧、刑、平、清」の耕韻の指摘があり、「明」を陽韻ではなく耕韻としている。
- ④ 01-33a01「此段隔句押韻」は、33a01の各句末「匿、意、得」の職韻を指すと思われる。但し『先秦韻読』では「蔵、陽、光」の陽韻と「匿、意、得」の職韻の指摘があるため、「蔵、陽、光」も指している可能性がある。「此段隔句押韻」の示す範囲がどこまでかは未詳。
- ⑤ 01-39a05「按根、門、押韻」は『先秦韻読』の指摘はない。『内経語言研究』266頁に本（文韻）、根（文韻）、門（文韻）の指摘がある。
- ⑥ 02-45b04「案此段押韻」は「精、形」の耕韻と「紀、里」の之韻を指すと思われる。『先秦韻読』では「精、形」の耕韻と「紀、里、母」の之韻の指摘があるが、母は元韻であり、之韻と元韻の押韻には疑問がある。
- ⑦ 03-58b04「按常、妙、要、押韻」は『先秦韻読』の指摘はない。また、常（陽韻）と妙・要（宵韻）が押韻するか未詳。
- ⑧ 03-59a09「按明、生、長、王、押韻」は『先秦韻読』の指摘はない。明・長・王（陽韻）と生（耕韻）は押韻する。
- ⑨ 03-60a05「得、服、押韻」は『先秦韻読』の指摘はない。得・服（職韻）は押韻する。
- ⑩ 03-62a06「劉云、極、脈、惑、則、得、国、並押韻」は『先秦韻読』の指摘はない。「劉」は多紀元簡のことで、この押韻の指摘は『素問識』に見える。極・惑・則・得・国（職韻）と脈（錫韻）は押韻する。
- ⑪ 03-62b05「新人亦押韻」は『先秦韻読』の指摘はない。『内経語言研究』268頁に新（真韻）と人（真韻）の指摘がある。